

# 全国学力・学習状況調査結果

令和6年4月18日に行われた全国学力・学習状況調査（6年生・9年生が実施）の結果が発表になりました。本校の結果については次の通りです。

6年	平均正答率	全国や県よりもポイントが上回った問題	全体的にポイントが低かった問題
国語 (全国)	62% (67.7%)	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいこと明確にすることができるかどうかをみる問題や、原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題がよくできていました。	資料などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや、書き言葉と話し言葉を正しく使うことに課題が残りました。書く活動において、互いの表現にアドバイスを送りあい、推敲する活動を設ける必要があります。
算数 (全国)	64% (63.4%)	問題場面の数量関係を捉えて立式をしたり、計算の仕方を説明したりする問題や、基となるものや条件に着目しながら、根拠をもって答えを判断し、その過程を振り返って記述する問題がよくできていました。	図形を構成する要素を見だし、活用することに課題が残りました。図形の体積や面積を求めるために、必要な情報を自ら選び出せるよう、既習を基にして考え、一人ひとりが実際に操作活動を体験する機会を設ける必要があります。

## 児童の生活意識等に関する調査について(6年生)

【生活面】「携帯電話・スマホ・PCの使い方について、家の人との約束を守っている」と回答した児童が県・全国平均を上回りました。そのため、SNSの利用や動画視聴をする時間を問う質問では、使用時間が県や全国平均と比べて短い傾向がみられました。

【学習面】国語や算数の学習が好きと回答する児童が県・全国平均を上回っています。授業の中で ICT 機器を活用している児童が県や全国平均と比べて多いです。中でも、自分の考えや意見をわかりやすく伝えるために活用している児童が多いです。放課後や休日の学習時間は県や全国平均よりも短いですが、授業以外でも ICT 機器を学習に活用していると回答した児童が県・全国平均を上回っています。

【自己意識】「学校生活で友達の考えを大切に、協力している」「自分には、よいところがある」と回答した児童が県・全国平均を上回りました。学校行事やきりたまタイム等で、小学部のリーダーとして仲間と協力して活動している成果の表れと考えられます。

9年	平均正答率	全国や県よりもポイントが上回った問題	全体的にポイントが低かった問題
国語 (全国)	69.0% (58.1%)	「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる」問題では全国の正答率よりも20ポイント以上、本校の正答率が高い結果でした。小説文で、「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」問題の正答率が90%を超えました。	問題ごとの本校の平均正答率と全国の平均正答率を比較すると全国の平均正答率を下回るものはありませんでした。「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝えるように話すことができるかどうかをみる」問題が、本校と全国の平均正答率が同程度でした。また、「文章と図を結び付け、その関係をふまえて内容を解釈することができるかどうかをみる」問題を苦手とする傾向が分かりました。
数学 (全国)	64.0% (52.5%)	「数と式」の「 $n$ を整数とするとき、連続する二つの偶数を、それぞれ $n$ を用いた式で表す」問題では全国よりも20ポイント以上、本校の平均正答率が高くなっていました。また領域別に比較すると、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の4つの全領域で、学校の平均正答率が全国の平均正答率を2年連続で上回りました。これは習熟度別にクラスを分け、生徒の実情に合わせて指導した結果かもしれません。	問題ごとの本校の平均正答率と全国の平均正答率を比較すると全国の平均正答率を下回るものはありませんでした。しかし、「ストーブの18Lの灯油を使いきるまでの『強』の場合と『弱』の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する」問題で本校の正答率が約3割でした。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できる生徒が少ないという結果でした。今後は身近な課題を、数学的に解決することができるような問題をできるように授業で対応していきます。

## 生徒の生活意識等に関する調査について(9年生)

- ① 数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。  
⇒ 普段の生活の中で、数学の授業で学習したことを活用する(「当てはまる」と回答した)生徒が全国平均よりも10ポイント高くなりました。一方で「どちらかといえば当てはまらない」と回答した生徒も多くなりました。
- ② あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。  
⇒ 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒が80%以上いました。一方で、全国平均と比べるとやや低い傾向です。今後の教育活動で改善を図っていきます。
- ③ 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)。  
⇒ ICT 機器を「2～4時間以上」使う生徒が15%ほど存在し、ICT 機器を「1時間弱」使う生徒が半数以上いました。ICT 機器を使う生徒が全国平均よりも多く、今後は ICT 機器をどのような方法で活用するか検討していきます。
- ④ 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。  
⇒ スマートフォン等で SNS・動画視聴する生徒のうち、「2時間以上(4時間以上を含める)」と回答した生徒が全国平均よりも少ない結果でした。一方、この「2時間以上」と回答した生徒は 50%いることは課題であります。